

燕岳～常念岳山行報告

【山行日】2022年 8月 5(金)～7(日)

【集 合】岩舟支所P AM 3:45

【費 用】マイカー2台 : 39,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬

飯口、小林、嶋田、福島、藤原7、吉田

8月5日(金) 中房温泉登山口から合戦尾根を登り、燕山荘から燕岳をピストンで登る。

岩舟支所 P3:45＝南安タクシー6:40/7:00＝

中房温泉 7:40/8:00～第二ベンチ 9:40～

合戦小屋 10:40/11:00～燕山荘 12:30/14:00～

燕岳 14:20/14:40～燕山荘 15:00



去年の同じ時期に燕岳～常念岳山行を計画したが、台風の影響で中止を余儀なくされた。

今年ハレビンジ山行で同じコースを計画すると、10名の参加申し込みがあったが最終的には8名



での山行となった。コロナ感染防止の為、2台の車に分乗し岩舟支所を3時45分に出発した。北関東道から上信越道、長野道を進み、あずみ野ICで降りて南安タクシーの駐車場に車を止める。登山靴に履き替え準備を整えたらジャンボタクシーに乗り、登山口の中房温泉まで送ってもらう。中房温泉に着いたらトイレ脇のベンチに移動し、トイレを済ませストレッチを行ったら出発する。登山口標識前で使用前の写真を撮り、いよいよ燕岳の山頂を目指し出発する。カエデやコナラの

樹林帯の道を九十九折れに登るが、初めからなかなかきつい登りを強いられる。30分程登った場所で小休止し、衣服調整と水分補給を行う。ここから尾根上に登ると傾斜が緩くなり、小さく下ると第一ベンチに着く。

小休止してゼリーや菓子を食べ、汗が引いたら第二ベンチを目指し出発する。コメツガやダケカンバの樹林をジグザグに登り、荷揚げ用のケーブルをくぐると間もなく第二ベンチに着く。休憩して疲れた足を休め、水分を補給したら第三ベンチを目指す。両側が切れ落ちたヤセ尾根を登るようになり、再び傾斜がきつくなるとコメツガの原生林となり、これを登り切ると第三ベンチに着く。



ここから富士見ベンチを目指す、合戦尾根の中でこの登りが一番きつく、登山口からの登りで疲れも出てペースが上がらない。花崗岩のザラザラした登山道を、丸太のハンゴや階段に助けられ、



ジグザグに急登すると富士見ベンチに着く。

ここまで来れば合戦小屋はもう一息、冷たいスイカを楽しみにひたすら登って行く。しだいに樹林の樹高が低くなり、木の間越の展望が開けると合戦小屋に着く。大勢の登山者が休んでおり、我々もベンチとテーブルを確保し名物のスイカを購入いただくことにする。

冷たくて甘いスイカは格別に美味しく、疲れた体と心が癒される。昼食が遅くなるので、どら焼きを食べて腹ごしらえしたら出発する。

笹とまばらになった樹林をジグザグに登り、展

望が開けた合戦の頭に出るが槍ヶ岳は見えなかった。ペースが遅いので2班に分かれて登ることにし、SLに1班をお願いし我輩とI口さんは後からゆっくり登ることにする。ハクサンフウロやキンポ

ウゲの花に癒されながら、マイペースでゆっくり登り無事燕山荘に到着した。思ったよりも良い天気で燕岳が良く見え、北アルプスの山々も頂上は雲に覆われていたが、雄大な北アルプスの景観が広がっていた。早速ベンチとテーブルを確保してランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ麺やスープを作る。

雄大な景色を見ながら食べるランチは格別で、皆さん笑顔で美味しそうに食べていた。ランチが済んだら燕山荘の受付を済ませ、

部屋に案内されて荷物を整理する。今回は明るく広い部屋に案内され、布団の間がアクリル板で仕切られゆったり寝られ、北アルプスデビューの方達には最高の部屋となった。荷物を整理したら登



山靴を履き、燕岳散策へ向かう。天気は予報よりも良い天気となり、花崗岩砂礫の穏やかな稜線をのんびり登って行く。奇怪な花崗岩のオブジェ、残雪を抱く北アルプスの悠々たる眺め、白い砂礫の斜面とハイマツの緑とのコントラスト、北アルプスの女王にふさわしい景観である。コマクサの可憐な花や、イルカ岩やメガネ岩を見ながら楽しく登り、砂礫の急登も楽々登って山頂に立つ。北アルプスの大展望を楽しんだら下山し、燕山荘に戻り反省会が始まる。食堂はアルコール禁止なので、外の



ベンチで飲むことにする。男性は生ビール大、女性は生ビール中ジョッキをオダーし乾杯！！

山の上でいただく生ビールは最高で、皆さん今日一番の笑顔で登頂の悦びに浸っていた。

H瀬さんが担いできた焼酎も飲み、満足したら部屋に戻ってひと休み。夕食の時間になり、1階の食堂へ移動する。夕食のメニューは、燕山荘名物のチーズ入りハンバーグである。燕山荘オーナー赤沼さんのお話を聞きながら美味しくいただき、部屋に戻って早めに床に就いた。

8月6日(土) 燕山荘から表銀座縦走コースを歩き、大天井岳から横通岳経由で常念小屋まで縦走後、常念岳をピストンで登る。

燕山荘 5:30～大下りの頭 6:30～大天荘 8:35～大天井岳 8:50/9:10～大天荘 9:20/9:35～東天井岳 10:50～常念小屋 11:50/13:10～常念岳 14:40/15:00～常念小屋 16:00

朝4時30分からの朝食を食べるため、4時過ぎから食堂前に並ぶ。燕山荘の朝食は焼いたサケがとても美味しく、全て残さず完食した。出発の準備を整えたら外のベンチに集合し、ストレッチを行



なったら記念写真を撮り出発する。燕山荘の脇から花崗岩砂礫の稜線を南に進み、表銀座コースを大天井岳に向かって歩きはじめる。

天気を心配したが、予想以上の晴天に恵まれ檜ヶ岳の雄姿に、皆さんの笑顔が弾ける。

斜面には沢山のコマクサが咲き、我々の背中を後押ししてくれる。

花崗岩砂礫とハイマツの緩やかな稜線を歩き、正面に大天井岳から檜ヶ岳を望み軽快に進む。緩やかに登下降すると、蛙岩の岩峰群に出る。

岩塊の割れ目を抜け、正面の岩峰を左手に回

り込み、お花畑を見ながら進む。小ピークを過ぎると、ジグザグに大きく下るようになり、安曇野側を巻いて稜線に登り返す。為右衛門吊岩を過ぎて稜線に出ると、起伏の少ない稜線歩きに変わり気持ちよく歩ける。砂礫の斜面にはコマクサの群落や、イワツメクサ、イワギキョウ等の花が見られる。短いクサリ場を下ると切通岩の鞍部に降り、岩に小林喜作のレリーフがはめ込まれている。ここから少し登ると分岐に出て、ここから表



銀座縦走路と分かれ左に大天井岳に向かって登って行く。山腹を斜めに横切って約600mを登るが、100mごとに案内標識があり励みになる。岩がゴロゴロした歩きにくい登山道を登り、大天井岳肩に建つ大天荘に着く。ザックを大天荘脇にデポし、右手にわずかに登ると大天井岳山頂に出る。山頂からは360度の大展望が得られるが、あいにくガスが掛かり大展望

は得られなかった。それでも時折ガスが晴れ、檜ヶ岳やこれから登る常念岳が見えるようになる。



記念写真を撮ったら大天荘まで戻り、トイレを済ませたら常念岳に向かう。



大天荘前で大天井ヒュッテに下る道を右に分け、キャンプ場を抜けて南に稜線を進む。明るい砂礫の稜線にはコマクサやタカネツメクサ、イワギキョウ等の花が見られ、爽快に歩いて行く。右手に大きく回り込み、砂礫とハイマツの斜面を緩やかに下って行く。常念岳がドンドン大きくなり、石組だけが残る旧二ノ俣小屋跡を過ぎると、東天井岳分岐に出る。縦走路が大きく左に折れ、ハイマツ帯の中に付けられた道を下って行くと横通岳との鞍部に出る。鞍部から横通岳の山腹を巻きながら緩やかに登って行

く。黒い常念岳が大きく立ちはだかり、左手に回り込むと眼下に常念小屋の赤い屋根が見えてくる。ジグザグに下り樹林帯の道を抜けると、砂礫の広い常念乗越に下り立つ。キャンプ場の縁を回り込み、常念小屋前のベンチでランチタイムとする。常念岳を見上げながらランチをいただき、ランチが済んだら小屋の受付を済ませる。別館の2階の室に案内され、それぞれの寝床が決まったら荷物を整理する。受付時に明日の朝食時間を確認すると、5時からで6時20分には終了するとのこと。常念岳には予定通り今日登ることにし、荷物を整理したら外に出て常念岳に向け出発する。



常念岳山頂まで標高差400mの急坂を登るが、疲れた体には堪える急登である。1歩1歩ゆっくり

登り、1時間30分かけて大きな岩が積み重なる常念岳山頂に着いた。山頂からの眺望は素晴らしく、しばらく山頂に留まり展望を楽しむ。展望を楽しんだら下山開始し、岩の急坂を下って行く。下りも超スローペースなので、SLと5名は先に下り口さんと我輩はゆっくり下る。小屋に着いたら反省会が始まるが、夕食が5時なので時間が無い。先行したSLが外のテントの場所を確保し、男性だけで飲み始める。女性達は着替えてから参加し、全員揃って乾杯し大いに盛り上がったが直ぐに夕食の時間が来てしまった。



食堂はアルコール禁止の為、おとなしくご飯を食べ部屋に戻った。我々は着替えてから明日の準備をして、明日の山行に備えて早めに床に就いた。

8月7日(日) 常念小屋から胸突き八丁経由で一ノ沢登山口に下り、南安タクシーでマイカーに乗

り換え岩舟支所へ帰着。

常念小屋 6:20～胸突き八丁 7:20/7:30～大滝ベンチ 8:30～一ノ沢登山口 9:20/10:15～南安タクシー
10:40/10:50＝ビレッジ安曇野 11:05/11:50＝デニーズ 12:00/12:40＝岩舟支所 P15:30

4時過ぎに起床し、窓の外を眺めると今日も晴れていた。出発の準備をして食堂に行き、5時から朝食をいただいた。ちょっと余裕をみて6時30分出発と伝え、南安タクシーに一ノ沢登山口10時30分に迎えを依頼する。外に出ると晴天で槍ヶ岳が素晴らしい。ストレッチを行なったら槍をバックに記念写真を撮り、名残惜しいが一ノ沢登山口に向かって出発する。最初はゆるやかに下るが、直ぐに急坂を下るようになる。途中にベンチがいくつかあるが、下りでは休まずに降りて行く。胸突き八丁手前のトラバース道はお花畑で、ハクサンフウロやシモツケソウ、ミヤマキンポウゲ等を見ながら楽しく下る。



下り切ると烏帽子沢に出て、河原に降りて小休止する。ここから一ノ沢登山口まで、烏帽子沢に沿って下って行く。今日の下りは岩やザレ場が無いので快調に下り、コースタイム通りのペースで下って行く。左からの沢の出会いで休憩し、残ったおやつをいただき足を休める。沢沿いの道は気持ちよく歩け、予定よりも1時間早く一ノ沢に下山できた。2日間の歩きを見て、1時間余裕を見たが仇となってしまった。携帯は圏外でタクシー会社に連絡のすべがなく、同じ会社のタクシーが来た



ら無線で連絡を取ってもらう。連絡が付き直ぐに向かうとの事だったが、蕎麦屋の出前で中々来ない。結局、1時間近く待たされ、ようやくタクシーに乗れた。南安タクシーに着いたらマイカーに乗り換え、ビレッジ安曇野で3日間の汗を流す。汗を流してサッパリしたらデニーズに行き、ランチをいただく。皆さん好きな物をオーダーし、美味しくいただいたら帰路につく。安曇野ICから高速道に入り、途中の横川SAでお買い物とトイレタイム。我輩はお土産に2個1800円の桃を買ったが、これが大当たりでと

ても甘くて美味しかった。高速道は順調に走り、予定より1時間30分早く岩舟支所に帰着した。3日間晴天に恵まれ北アルプスの雄大な景色を堪能でき、思い出に残る夏山山行となった。